

- モッピークラブ研修会
- 地域生涯スポーツ推進協議会
- なみはやスポーツ振興基金
- なみはやスポーツネット
- 障害者スポーツ
- モッピークラブ活動紹介
- 府民スポーツ・レクリエーションフェスティバル

21世紀生涯スポーツ社会づくりへの提言

行政と民間団体との協働による生涯スポーツ社会づくり

大阪教育大学助教授
赤松 喜久

生涯スポーツの意味や意義は、ほぼ共通に認識されるようになってきたように見受けられます。しかしながら、生涯スポーツ社会をどのように作りあげていくかということになると、不確実な面が少なくありません。現在およびこれからの社会変化を見据えて、大阪における生涯スポーツ社会をどのように築きあげていくのかについては、行政と民間団体との新たな協働の関係を抜きに語ることはできません。

民間団体という場合、広義には収益団体も含まれます。もちろん、収益団体のパワーを如何に活用していくかということは重要な問題ですが、これからの生涯スポーツ社会の実現に向けての軸足は、NPO法人等の公益的団体の活動に置かれることとなります。その理由について簡単に説明を加えると次のとおりです。公益的団体の目的は、文字通り公益に資することです。そのために組織の維持・発展が図られることとなります。公益的団体の目的と行政組織の使命は基本的には軌を一にするものなのです。目指す方向が同じであるということは、協働の体系の礎となる“共通の目標”設定を促進することになるわけです。

しかしながら、公益的団体とりわけNPO法人は、その歴史が浅いこともあり、一般的には組織基盤が強固とは言い難い状況にあるように思われます。そこで、行政組織にはNPO法人等の公益的団体を育て、その力の活用を図りながら、限られた資源で最大の成果をあげることができるような仕組みを確立していくことが求められます。また、公益的団体には、行政や企業の組織的支援を受けながら組織基盤を強固にしつつ(学習しながら自律的に)組織の目的である公益に資する活動を積極的に展開していくことが期待されます。双方の歯車がうまく噛み合うことによって、これからの生涯スポーツ社会づくりの大きな推進力になるものと考えます。

